

令和4年度 第2回 名張市社会教育委員会 (会議概要)

◇開催日時：令和4年10月27日(木) 14:00～15:30

◇開催場所：名張市総合福祉センターふれあい 1階 101会議室

◇出席委員：斉藤健委員、増岡孝則委員、廣岡茂斉委員、耕野一仁委員、生田茂夫委員、時枝民生委員、須曾野仁志委員、千邑淳子委員、若山東男委員、神野稔委員、豊岡千代子委員、椿原礼子委員

◇欠席委員：森永美紀子委員、守屋さおり委員

◇事務局：西山教育長、驚阪教育次長、文化生涯学習室松本室長、雪岡社会教育指導主事、西山、西岡

◇傍聴席：なし

1、教育長・社会教育委員長 挨拶

2、議事 (1) 提言書を受け、今後について

社会教育委員会より受けた「提言」について、現在の進捗状況と今後の進め方について、資料をもとに事務局より説明を行う。現在、ステップ3にあたる、「提言の内容を広く周知する」を進めている段階にあり、学校や地域、保護者へ向けて提言の内容を発信している。今後も、各所への周知活動を進めつつ、提言の実現に向けて、事務局として積極的に取り組んでいきたい。

また、話し合いの中で、委員より、「家庭」の在り方について、意見がでた。(以下、意見の内容)

○家庭について (神野委員)

家庭の定義が、時代と共に変わりつつある。かつて、家庭と位置付けていた形が、今は通用しなくなっている。核家族化が進み、ひとり親家庭や、共働き家庭、保護者と子どもの関係など、目まぐるしく状況が変わっている。そういった中で、今の、「家庭」の状況に合わせた取り組みや、施策をしていかなければいけないと思う。「家庭」という表現を見てもそうだが、現代にマッチした形に定義しなおして、そして、そこに応じた対応をしていくべきであると思う。

議事 (2) 社会教育委員として提言実現に向けて活動事例紹介 (各委員より発表)

今後、提言の内容を進め、実現するために、どのような活動を行っていけば良いのか、あるいは、現在、すでに活動していること等を、社会教育委員より発表する。(以下、委員よりの発表内容)

○放課後子ども教室活動について (斉藤委員長)

百合が丘で放課後子ども教室の運営に携わっており、「百合小子どもクラブ」という名前で活動をしているが、現在、130名ほどの児童が登録をしている。その中でも、活発に活動しているのは、80名ほどであるが、近年、コロナ禍という事もあり、活動が縮小されていたが、今年は、少しずつ活動を再開し始めた。様々な活動をする中で、参加した子どもたちを見ていると、月一回程度の活動でも、非常にそれを待ち望んでいるように思う。地域の方も、30名ほどサポーターとして関わっていただいているし、なにより、中高生が積極的に運営に関わっていることが良い事ではないかと思う。若者が、地域を盛り上げようとしてくれ、今後も、こういったことを積極的に行っていきたい。

○防災訓練について（齊藤委員長）

赤目中学校の学校運営協議会の委員をさせてもらっているが、その中で、これまで学校のみで行っていた防災訓練を、地域も一緒にすることになった。校長先生のご理解もあり、地域と学校が協力して防災訓練をします。そうして、地域と学校のつながりや、関係がより強くなる。

○地域活動の若者参画について（齊藤委員長）

令和4年11月5日に地域フェスタという事で、体験教室やミニ運動会を企画しているのですが、中学生等の子どもにも積極的な参加を促している。また、「百合が丘ジュニアカウンセラー（YJCC）」の子どもたちには、運営の手伝いをお願いしており、若者による地域活性化のひとつとして期待をしている。

○家庭の力について（廣岡委員）

家庭の在り方が、多様に変化していく中で、家庭での教育、家庭の姿勢が大切になっている。昨今、小学校、中学校における不登校生徒の数が増加している。その中でも、不登校から復帰できる子ども、なかなか登校できるようにならない子どもがいる。様々な要因はあるが、そのひとつに家庭での押し出してもらえないかがあると思う。家庭によっては、子どもに無関心、あるいは、学校へ登校するという意識が低いところもあり、そういった家庭の子どもは、不登校の傾向から抜け出しにくい。もちろん、学校として、すべて家庭任せにするのではなく、担任や、学校長を中心に、学校へ来づらい子、教室に入りづらい子どもに向けて手だてを講じつつ、家庭への支援やサポートをしている。例えば、入学前の子どもが就学時前検診を学校へ受けに来ます。その際に、保護者と話しをして伝える、学校だより等で発信するといったことをまずはしている。

○学校教育における持続可能な社会にむけて（廣岡委員）

持続可能な社会というと、規模が大きく、難しい面もあるのですが、まずは身近なところから、子どもたちに伝えるようにしている。SDGsであったり、環境問題、人権の学習といったことを、義務教育の中でしっかり教授していく。そういったことが大事なのかなと思っている。また、個人的な意見になるが、物事を科学的に考えて正しいと思うことを自分で判断できることが大切ではないかと思っている。いくら環境問題や、様々なことを学んでも、騙されたり、間違った意見に流されてしまうようでは、意味がなくなってしまう。自分で正しいことを判断できる子どもを育てるのもベースにあると考えている。

○学校と地域とのつながりについて（廣岡委員）

子どもと、地域のつながりが非常に大切だという認識のもと、市民センター主催の事業に参加することや、発表会で交流をするなどの活動を行っている。特に、コミュニティスクール、スクールコミュニティといったものをより活発にしていくには、繋がりがなくてはいけない。

今、学校で行っている活動に「ミシンボランティア」や、「寄り添いボランティア」というのがある。地域の方にボランティアの方に来ていただいて、子どもたちと一緒に過ごしてもらおうものですが、核家族がほとんどの中、家におじいちゃん、おばあちゃんが居ない子どもたちが、とても懐いている。また、来てくれるボランティアの方々も、喜んでもらえていて、お互いが良い関係を作りつつ、教員とも顔が見れる関係をつくる機会となっている。

○SDGsについて（須曾野委員）

SDGsに関連して、名張のユネスコスクールの取組みが本当に素晴らしいと思う。三重県内で、特に名張が頑張っている。これは、熱心な先生や、関係者がいるからで、もっと広がらないといけないなと思っている。今の世の中を見ると、ロシアとウクライナの問題もそうだが、戦争というのが、一番SDGsと逆行していると思う。せっかく作ったものをすべて壊してしまうような。そういったことを子どもたちにしっかり伝えていくことが、人権学習や地域学習にもつながっていくと思う。

○公民館の講座から感じたこと（須曾野委員）

公民館から依頼を受けて、高齢者向けのインターネット講座を受け持っているが、これまでパソコンを触ったこともないような70代の高齢者たちが参加してくる。様々な使い方で生活を豊かにすることが出来ると教え、少しずつでもインターネットが使えるようになると、とても喜んでくれている。そこから発展して、遠隔にいる子どもたちと、インターネットを活用して繋がれるようになる講座をするなどすると、もっと良いのではないかと考えている。公民館がそういったことをたくさんして、もっともっと活用していくと良いと思う。私でよければいくらでも講師します。

○図書館と地域のつながり（千邑委員）

図書館長を務めている中で、図書館が“ハブ”となってつながりを作れるんじゃないかと感じた事例を紹介したい。

ひとつ目が、地域の伝統野菜である二つ寺大根を育てるという事業があり、図書館の敷地内に畑を作り、二つ寺大根をPRしたが、その際に地域の方に、畑のお世話をしてもらい、大根を育ててもらった。畑へ来たときに、住民同士が話すきっかけにもなるし、家族で畑の世話をしに来た際の家族間のコミュニケーションとして非常に良いと感じた。また、畑を見に来たついでに、図書館にも立ち寄ってくれる等、相乗効果も見られた。

次に、不登校の居場所としての図書館ということで、ボランティアとして、学校へ登校しにくい子どもに、図書館の仕事を手伝ってもらおうよということをした。特に、土日であれば、不登校の子どもでも、周りの目を気にせずに来てもらえるし、手伝ってくれた子どもたちは、その時笑顔になってくれて、すごくよかったと感じた。

図書館という社会教育施設を、地域の交流の場としてもっと活用出来たら良いなと思っている。

○子育てにおける地域の関わり（豊岡委員）

近年は、共働きで働く家庭も増え、小さな子どもを保育園や幼稚園に預けることが多くなっている。生活もあるし、それは当然わかるが、それによって、愛情不足と感じてしまう子どもがいらないだろうか。そして、そうなった場合に、地域の者が、力になれないだろうかと思っている。地域の人たちが、子育てをする家庭を助け、親代わりになっても良いんじゃないかと感じている。家庭教育を家庭任せにするのではなく、地域のこととしてとらえ、子どもという、弱い立場にある子たちにしわ寄せがいかないようにしたい。地域の大人が出来ることを、これからもやっていきたい。

○家庭教育と保護者へのケアについて（椿原委員）

家庭教育の事業に関わらせてもらっている中で、感じたことを発表します。教育センターで、「家庭教育講座」や「豊かな子育て講座」といったことを行っているが、もっとこういった場を活用してほしいと思っている。できるだけ広報し、多くの方に知ってもらえるように努力をしているが、本当に助けが必要な、悩む保護者に届いているのか、参加しやすいものになっているのかを常に考えている。本当に必要なところには中々浸透し

ていかない現状がある。なんとか、そういった層へ情報を届け、参加してもらいたい。参加することで、保護者の気持ちが楽になると思うし、参加者同士、あるいは、ボランティアスタッフとの交流によって、解決していく子育て問題も多いと思う。お母さんやお父さん自身の心のケアという意味でも、非常に良い場だと思うので、これからも積極的に情報発信し、参加を促したい。

○市民センターを活用した学校とのつながり（生田委員）

市民センター長をしている中で事例だが、学校で先生が困った時等に、市民センターを活用してほしいと思う。例えば、今年、地域の学校で、サツマイモを育て、それを最終的に焼き芋にするという活動があった。焼き芋をするといっても、若い先生だとやり方がわからない。そこで、市民センターにやり方を教えて欲しいと相談があった。こういった使い方でもいいので、積極的に市民センターに相談し、活用してほしいと思う。この焼き芋の活動にしても、稲刈り体験にしてもそうだが、ただ単に食べるという事ではなく、田起こしから収穫、調理までいくプロセスを学ぶということは非常に良い教育だと思う。それに関われるのは良いと思うし、地域の方に、“田舎弁”で上手に説明してもらったら、益々交流ができるんじゃないかと思う。

○ユネスコ協会を通じた国際交流について（耕野委員）

名張ユネスコ協会の活動をさせてもらっているが、長年、韓国の子どもたちとの、絵画展の交流を続けている。名張の子どもたちと、韓国の子どもたちが絵画を通じて交流を深め、また、それぞれの絵画作品を地域で展示する活動を続けてきたことは、評価できるんじゃないかと思う。

また、現在、名張では、1,000人～1,200人ほどの外国人が住んでいると言われていたが、その中の、特に家庭をもって、長い期間日本に在住している家庭に対し、どのように地域が関わっていくのかも課題だと思う。先般、名張市で就労しているインドネシア人の若者を招いて、青蓮寺で芋掘り体験を行ったが、そういった名張にすむ海外の方が、日本の歴史や文化、名張のことを学ぶ機会がもっとあればいいんじゃないかとも思う。ユネスコ協会だけでは、力が及ばないこともあると思うので、そういったときに、地域の学校の先生方や、市民センター等の力も借りながら、活発な活動をしていきたい。

○地域活動の高齢化について（時枝委員）

地域での活動は活発に行っていかなければいけないが、現状、活動の中心になっているのは、高齢者が多く、肝心の子育て世代の親があまりいない状態である。共働きが多く、仕方ないことであるが、時代と共にその傾向は徐々に悪くなっているように思う。かつては、早めに仕事を終えて、少しでも見に来るといったようなこともあったが、現代はそういったことも難しいのかもしれない。

地域としては、子育て以外の全般において、若い世代の力を貸して欲しい。それをどのようにしていけば実現できるのかを考えている。例えば、学校の先生が、住まれている地域の活動にもっと参加してもらったり、市の職員が、自分の住む地域活動にもっと参画していくと良いのかもしれない。

子どもの将来を担う親御さんが主となって、お年寄りがそれをサポートしていくような、そんな形がとれるようにしていきたい。

○子どもの居場所づくりとサポートの充実（神野委員）

家庭の事情などによって、食事をちゃんととれない子どもに対してサポートする、「子ども食堂」といった活動がとても大切だと思う。もちろん、大人に対してもだが、困っている家庭や子どもをサポートする体制の充実をもっとしていかなければいけない。そして、近く困っている人を助けたいという思いをもつ人をサポート

するようなセンターがあると、そういった活動が活発になると思う。

○学校教育の地域移行について（増岡委員）

最近、中学校の部活動の地域移行といった話もあったが、学校の先生が忙しくてできない部分を、地域が担って、解決をしていく。これは、部活動に限らず、学校の中で、先生方が困っている部分が他にもあると思う。そういったところを地域にいる専門分野の方が入ることで解決していけば良いと思う。ただ、単にまちにゆだねるのではなく、学校とまちが協力しながら進めていけば良い。

○ふるさと学習について（増岡委員）

かつて、ふるさと学習で使用する教材「なばり学」の編集に携わったが、その際に、編集する立場でありながら、自分自身が地域の事を勉強してこなかったことを思い知らされた。その経験から、小中学校の時点で、地域のことを学ぶのが非常に重要だと思っている。また、新たに系統だって学ぶための教材を作るのであれば、実践の面で、関わっていけるのではないかとも思っている。

私自身は、「金石文研究会」に所属しているが、そういった活動に、小中学生も参加してはどうかと考えている。小中学校で学んだことが、大人になってからでもできる。つながっている。そういったことが、地域を学ぶ上で重要だと思う。

3、その他

・中ブロック研修会について

今年度行われる中ブロック研修会について、事務局より説明する。（計画は以下のとおり）

名称：三重県社会教育委員連絡協議会 中ブロック研修会

日程：令和5年2月7日（火）午後1時30分より

場所：名張市防災センター

内容：①講演会 ②事例発表 ③交流会

・名張市美術展覧会への協力についての報告

令和4年9月28日～10月2日に行なわれた「名張市美術展覧会」の中で、社会教育委員が運営協力をした事業について、事務局より報告。当日の様子や、社会教育委員の活動を周知する取り組みをおこなったことを報告する。